

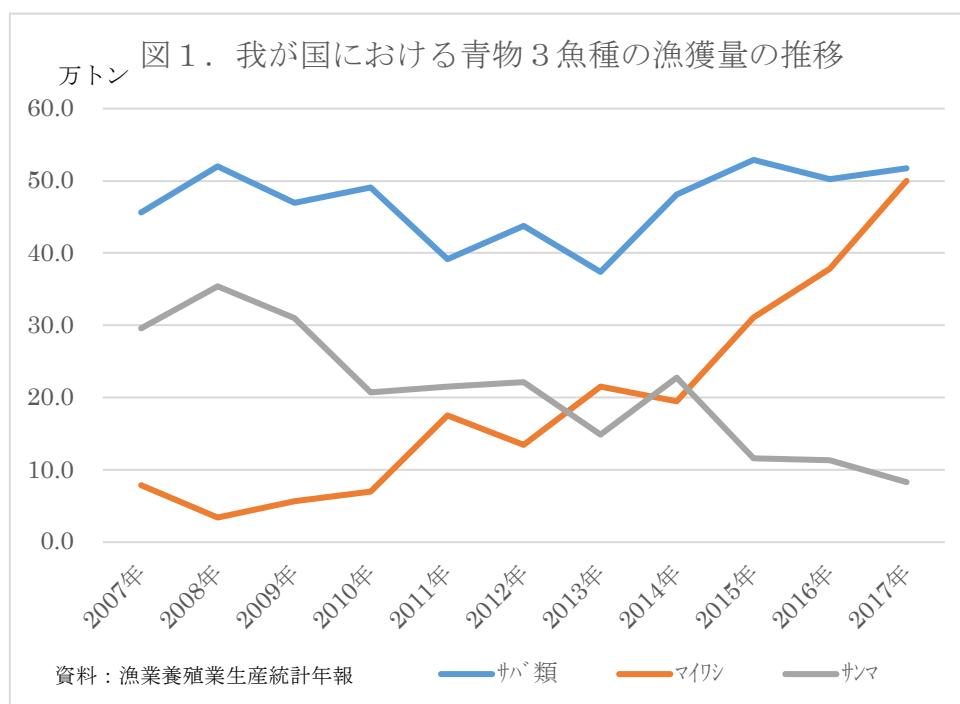
第9話：サバ缶ブーム下における青物3魚種缶詰の販売金額の動向

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合

専務理事 松浦 勉

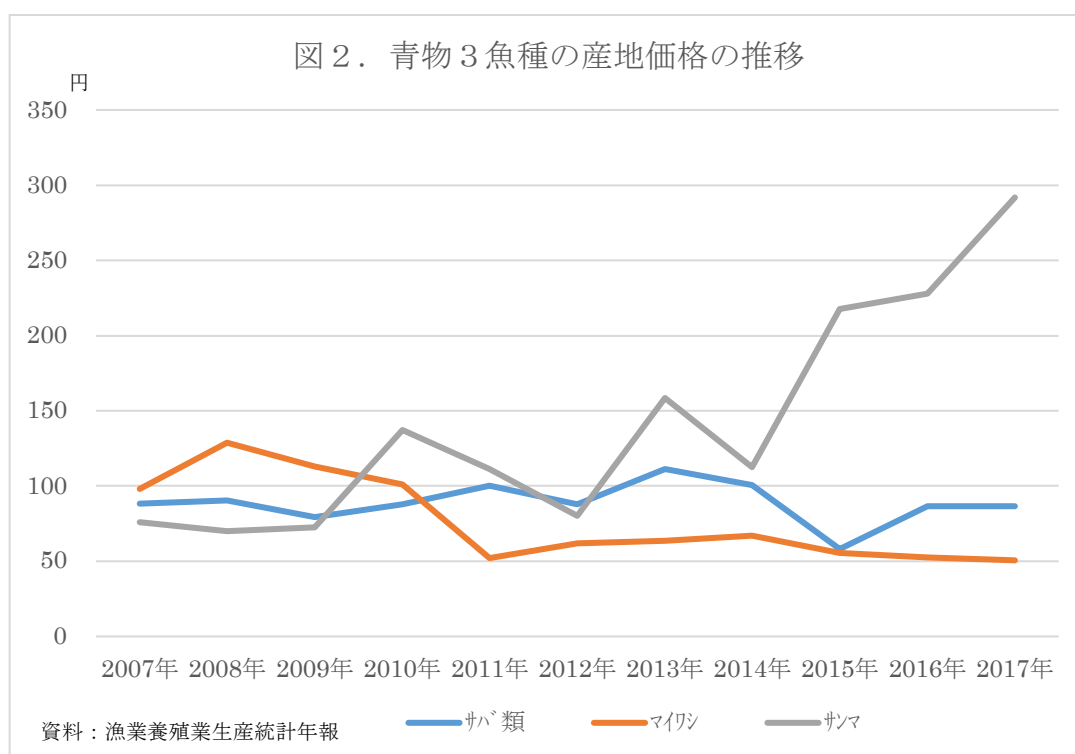
「サバ缶詰を食べよう」シリーズでは、第1話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第2話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第3話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第4話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第5話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第6話が「サバ缶レシピ本の出版動向」、第7話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」、第8話が「統計資料からサバ缶ブームをみる」についてお話しさせていただきました。今回は、「サバ缶ブーム下における青物3魚種缶詰の販売金額の動向」についてです。

世界的な好漁場として知られる我が国周辺海域では、サバ類、マイワシ、サンマが大量に漁獲されています。これらの魚種は、いずれも背の部分が青く見えるので、「青物3魚種」と総称されています。青物3魚種は、北西太平洋を大回遊し、身肉が美味しくなる「旬」になると、我が国近海に来遊します。図1に、我が国における青物3魚種の漁獲量の推移（2007年～2017年）を示しました。



まず、サバ類の漁獲量は、2007 年が 46 万トン、2017 年が 52 万トンであり、比較的安定的に推移しています。また、マイワシの漁獲量は、2007 年が 8 万トン、2017 年が 50 万トンであり、大幅に増加しています。一方、サンマは、2007 年が 30 万トンでしたが、2017 年には 8 万トンとなり、マイワシとは逆に大幅に減少しています。サンマ漁獲量の減少は、北西太平洋海域における外国漁船による漁獲量が増加したことが一因のようです。

では、漁獲量の増減の影響を受けて、価格はどのように変化したのでしょうか。図 2 に、2007 年から 2017 年における青物 3 魚種の産地価格の推移を示しました。図 2 は図 1 と同様、農林水産省の漁業養殖業生産統計年報を用いており、消費者物価指数（2015 年が基準）により補正した産地価格を示しました。



まず、サバ類の価格は、2011 年から 2014 年の間、100 円台に高騰した年もありましたが、2007 年と 2017 年はいずれも 80 円台でした。なお、2018 年の統計資料はまだ公表されていませんが、サバ缶ブームにより、価格が 100 円以上に再び高騰しました。次に、マイワシの価格は、2008 年が 129 円でしたが、漁獲量の増加に伴って安くなり、2017 年が 51 円でした。一方、サンマの価格は、2007 年には 76 円でしたが、漁獲量の減少を反映して、2017 年には 292 円に高騰しました。

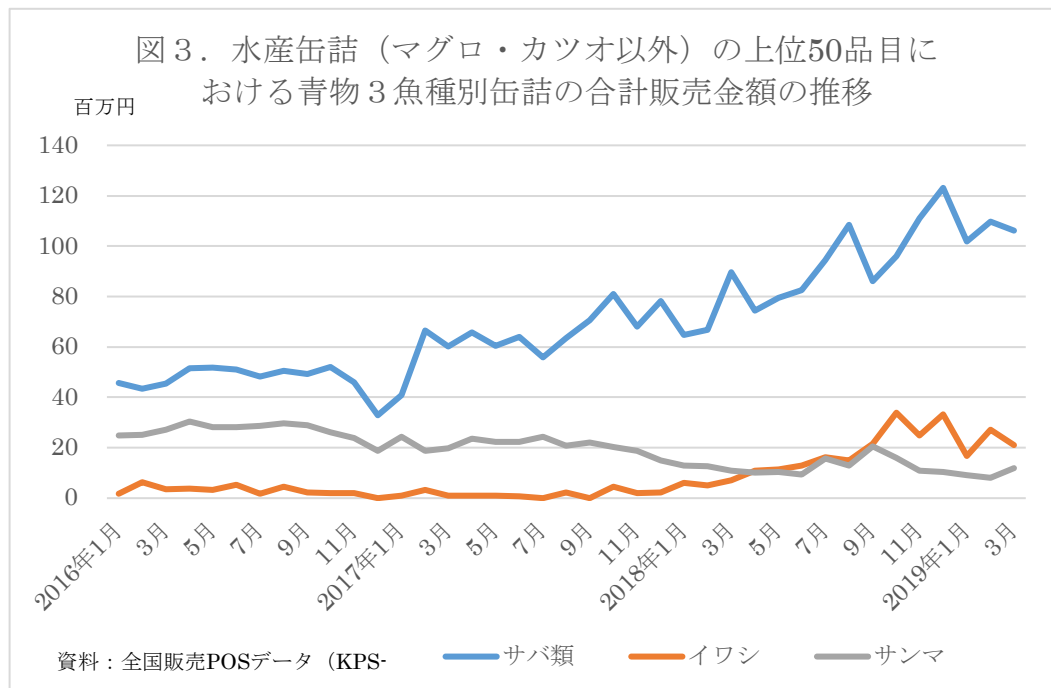
表 1 に、水産缶詰（マグロ・カツオ以外）上位 50 品目の販売金額を事例として示しまし

た。この表は、先月号の第8話に掲載した表と同じものです。表1では、マグロ・カツオ以外の水産缶詰である、サバ類、マイワシ、サンマ、イカ、アサリなどの缶詰の商品別販売金額が掲載されています。このため、上位50品目における青物3魚種缶詰の魚種別缶詰の合計販売金額を計算することができます。そこで、図3に、水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位50品目における青物3魚種別缶詰の合計販売金額の推移を示しました。

表1. 水産缶詰（マグロ・カツオ以外）上位50品目の販売金額
（2019年3月）（NO11～39を省略）

No	企業名	商品名	販売金額(円)
1	マルハニチロ	マルハ 月花さば水煮 200g	7,175,259
2	マルハニチロ	マルハニチロ さば水煮 EO6 190g	7,128,483
3	宝幸	宝幸 さば水煮 EO6号缶 190g	6,374,667
4	マルハニチロ	マルハ さんま蒲焼 100g	6,280,454
5	マルハニチロ	マルハニチロ さばみそ煮 EO6 190g	5,840,245
6	マルハニチロ	マルハ 月花さばみそ煮 200g	5,286,503
7	マルハニチロ	マルハ いわし蒲焼 EOK5A 100g	5,068,795
8	宝幸	宝幸 さばみそ煮 EO6号缶 190g	4,853,092
9	ノルウェイク・インターナショナル	ノルウェイク さば缶水煮 150g	4,835,961
10	日本水産	ニッスイ SABA さば水煮 缶 150g	4,213,219
	(略)	(略)	
40	極洋	極洋 さば水煮 EO 6号缶 190g	1,785,422
41	日本水産	ニッスイ さば味付 EO T2 缶 190g	1,685,603
42	日本水産	ニッスイ いか味付 130g	1,596,465
43	日本水産	ニッスイ スルツとさば味付減塩 缶 190g	1,588,272
44	マルハニチロ	マルハ さんま蒲焼3S 100g×3	1,587,784
45	マルハニチロ	あけぼの あさり水煮 EO8 130g	1,526,156
46	極洋	極洋 さば味噌煮 EO6号 缶 190g	1,492,425
47	シジシージャパン	CGC さばみそ煮 6号缶	1,453,716
48	極洋	極洋 さば水煮EOK 150g	1,426,494
49	マルハニチロ	マルハニチロ 減塩さば水煮N EO6号 190g	1,420,216
50	極洋	極洋 シーマルシェ いわし蒲焼タイ産 90g	1,414,876
		上位50品目の合計	74,034,107
		水産缶詰(マグロ・カツオ以外)の合計金額	306,139,493

出典:KSP-POS(缶詰時報、2019年5月号)



まず、サバ類缶詰の合計販売金額は、サバ缶ブーム以前の2016年1月には46百万円でしたが、2019年3月にはサバ缶ブームにより106百万円と大幅に増加しました。また、イワシ缶詰の合計販売金額は、2016年と2017年には、数百万円にとどまっていたが、サバ缶ブームの恩恵を受けて、2018年3月以降上昇し、2018年12月には33百万円に増加しました。一方、サンマ缶詰の合計販売金額は、サンマ価格の高騰に伴うサンマ缶詰価格の上昇と、原魚不足による缶詰生産量の低迷により、合計販売金額が減少しました。

青魚3魚種は、漁獲量の変動に伴う缶詰生産量の増減や、産地価格の変化、サバ缶ブームの前後などにより、魚種別缶詰の合計販売金額が変動していることが明らかになりました。

次回は、「青物3魚種缶詰の品目別消費動向」についてご紹介します。